

令和6年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数） |
|---|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|--------------------------------|
| ○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

3. 教科に関する調査結果の概要

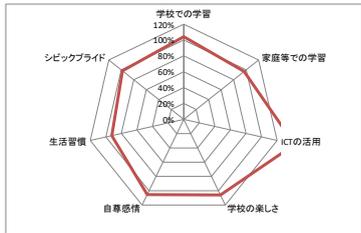
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.6 | 60 |
| 全国 | 9.5 | 68 | 10.1 | 63 |

- (2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全体の問題数の約半数が福岡県・全国の正答率を上回っている。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
| | よくてきた問題 | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 | |
| | 努力が必要な問題 | 情報と情報・語句と語句との関係の表し方を理解して、使うことができる。 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全体の問題数の約半数が福岡県・全国の正答率を上回っている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくてきた問題 | 計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することができる。 | |
| | 努力が必要な問題 | 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に合うことを言葉と数を用いて記述することができる。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



授業で「電子辞書」などのICT機器をどの程度使用しましたか?との問いに対して、「ほぼ毎日」と答えた児童の割合が86.4%、「週に3回以上」と答えた児童の割合が3.6%と、合わせて100%の児童が日々の学習においてICT機器を活用していると答えている。今後も、授業において、積極的にICT機器を活用していく。

- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
- 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

国語科では「情報の使いかたに関する事項」に課題が見られた。多くの情報の中から、必要な情報を取捨選択する力を身に付ける必要がある。そのためには、普段の生活の中や学習の中で、情報を取捨選択する場面を多く設定していく取り組みを行う。算数科では「図形領域」に課題が見られる。図形領域においては特にタブレットを活用し空間の位置関係や構成を視覚的にとらえることができる授業を展開するようにする。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭等での学習については、学校の授業時間以外で上日の学習時間が少ない。休みの日も学習する時間の設定を促していく。学校からも、まとめ方が上手なキッズノートを紹介し、自主学習の質を向上させるよう、今後も継続して取り組んでいく。生活習慣については、年々向上し、全国平均を上回る項目が増えてきている。今後も、早寝・早起き・朝ごはん・スマートフォンの使用時間を家庭や地域に啓発していく。